



本日はよくお参り下さいました

木々の芽吹きに春を感じるこの頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今月は桃の節句の月でもあります。女の子のいらっしやるご家庭ではかわいらしいひな人形が、たたずんでいることと思います。さて、先日「この世界の片隅に」という映画を見ました。アニメ映画なのですが、設定は戦前、戦中の時代、昔の人はこんな生活をしていたのかと、どんどん引き込まれます。事実はまだ悲惨で思い出したくない方もいると思います。現代に生きる私たちが知らない戦時中に、こんな風に生きていた人がいたかもしれない、こんな風に生きていた人ならいいな、と思わせてくれるような、見た後に誰かに勧めたくなる映画でした。権禰宜 道子



3月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈る。

3日 上巳(じょうし)五節句の一つ。桃の節句。ひな祭り。昔から節句の日には農作業などの仕事を集落全体で休む習慣があったと言われています。

5日 啓蟄(けいちつ)まだ寒い時節ではあるが、日足も目に見えるように長くなり、陽の光の中に春を強く感じるようになる。蟄は「ちゅう」の慣用読みで、虫などが土中に隠れている意である。



啓蟄(イメージ)

11日 東日本大震災黙禱を捧げましょう。

17日～23日 彼岸 ※下記豆知識ご参照下さい。

20日 春分の日(春季皇霊祭) 一般では、この日を春の彼岸の中日という。春季皇霊祭はもと祝祭日の中の大祭日の一つ。毎年、宮中の皇霊殿で、行われる皇室の大祭で、天皇陛下御自ら歴代の天皇・皇后・皇族など皇祖の神霊をまつる儀式。戦後「春分の日」として国民の祝日となった。

天神さまの豆知識

―お彼岸は日本だけ?―

お彼岸は、七日間にわたって行われる、仏教の法会(彼岸会)からきていますが、

お彼岸の背景には

日本古来の信仰が

深く関わっています。

お彼岸は春と秋

の二回あり、春分と

秋分の日をお中日

とする七日間を指

します。ところが仏教の

本家インドでは、

そもそも先祖の墓とい

うものがなく、お墓参り

もしませんでした。さ

らに、四季のはっきりし

ないインドでは、

春分や秋分の日は季節

を分ける特別な日では

ありません。一方、お

墓も四季もある中国で

も、お彼岸にお墓参り

するという習慣は、生

まれませんでした。

ではなぜ日本では、お

彼岸にお墓参りをする

ようになったのでしょうか。

もと日本では、太陽を

崇拝する信仰があり、



祭り、祈年祭(きねんさい)、秋祭り、新嘗

祭(いなめさい)が行われます。お彼岸はご

先祖様にお参りするだけでなく、自然

に感謝する日なのです。やがて仏教が伝

わると、太陽が真東から昇り、真西に沈

む春分と秋分の日が、特別に重要な日と

考えられるようになりました。仏教では、

極楽浄土は西方の彼方にあるとされて

いるので、太陽が真西に沈む彼岸の日

は、願いや思いが通じやすいという発想

が生まれたと考えられています。

参考資料『知っておきたい日本の三大宗教』

河出書房発行・福島県神社庁ホームページ

今月の言葉

『人を相手にせず、

天を相手にせよ』

西郷隆盛遺訓

天を神と考えるならば、神を相手にして人生を送る。自分の果すべきつとめは、当然つとめる。相手の行動には、その可否は問わない。人生で問題にすべきは、自分が最後まで、誠心を尽くしているかどうかである。又その至誠の域に入らんためには「まず独りを慎む」ことから手を下すようにつとめよ、とした。西郷の修養の要は私のない人生、無欲の平常心であったといえる。「参考文献『続神道百言』岡田米夫著 神道文化会発行